



新世紀のキャンパス

Campus of New Century

日本大学工学部



最上階楕円形の展望スペースをはじめ、直線と曲線などを組み合わせた、柔らかなイメージの外観。3階南北、7階南に緑を配したウッドデッキテラスを設け、エコキャンパスを実感できる憩いの場を提供している。



7層吹抜けアトリウムは、開放感を味わえるように設計。筋交いの役目もある真っ白な空中連絡橋は“魅せる吹抜け”を演出。

日本大学工学部は2006年3月、工学部70号館を竣工した。「70号館は知の集積。中身が素晴らしい」と語るのは、小野沢元久工学部長だ。

“いつでも、どこでも、誰でも”学べるサイバーキャンパスの実現を合言葉に、全教室にプロジェクター、スクリーンを設置、光ケーブルによる高速LANを敷くなど最新のIT設備を誇る。

学生数8万人を誇るマンモス大学でありながら、学部ごとにキャンパスが全国に分散している日本大学は、学生からも「独立した単科大学のようで、総合大学のイメージが非常に希薄」といわれる。これまでは衛星による遠隔授業で他学部との単位互換を行ってきたが、コストの高い衛星からインターネットへ移行しようと考えた。しかし、広い敷地内に分散型のキャンパスを作ってきたため、インフラ整備も分散型で行うとなると多額の維持管理コストがかかることになる。そこで機能集中型の新棟を建設することになった。

70号館はCALL教室をはじめ、グループ協調学習室、学習支援センターなど、最新鋭のマルチメディアを駆使した新講義システムを導入している。グループ協調学習室では、グループディスカッションによる授業を展開する。今の学生は友達をあまり作らないので、意識的にグルーピングを行い、議論させることが重要だという。学習支援センターでは、システムエンジニアが常駐し、パソコンのレンタルやソフトのインストール、端末の使用方法などを指導する。

また環境に配慮したエコキャンパスの整備を進めており、建築資材には自然素材を多用し、天井の全面を天窓にして、自然光を取り入れることで消費電力を節約している。トイレの洗浄水には独自の雨水ろ過長期保水システムからの水を使用。自然換気システム、ダブルスキン、屋上緑化、夜間蓄熱による空調も取り入れた。

18歳人口が減少していく中で、ターゲットは社会人だという。技術の進歩が目覚ましい工学分野において、昔の正規教育のみに甘んじる日本の教育システムでは、国際競争に勝てない。社会人のスキルを補完するために、授業内容をデジタル化し、遠隔配信しようとの試みを描いている。

2007年12月には、県内の工業科を有する高校12校と連携を結んだ。IT環境が広い福島県の物理的な距離を補い、高大連携を成功させるという。人材供給という地域貢献も果たしていく考えだ。



講義や高大連携、オープンキャンパスに使用する円形講義室は、音響効果も高く、壇上との距離が近く感じられる。



館内随所に設けた学生のためのフリースペースからも学内LANに接続できる。



グレー地にNICHIDAI REDが映えるモダンなデザインに構内表示を統一。



暖かみのあるフローリングのロビー。写真奥の大型ディスプレイによる掲示と合わせて個々のパソコンに情報を配信。



可変性の多目的教室は最大1200人を収容可能。歴代のノーベル賞受賞者が多数講演する歴史ある教養講座の会場ともなる。



グループ協調学習室では、机と椅子をサークル状に配置し、パソコンでプレゼンテーションを行いながら議論を交わす。



双方向授業を可能にしたコンピュータ支援のCALL教室